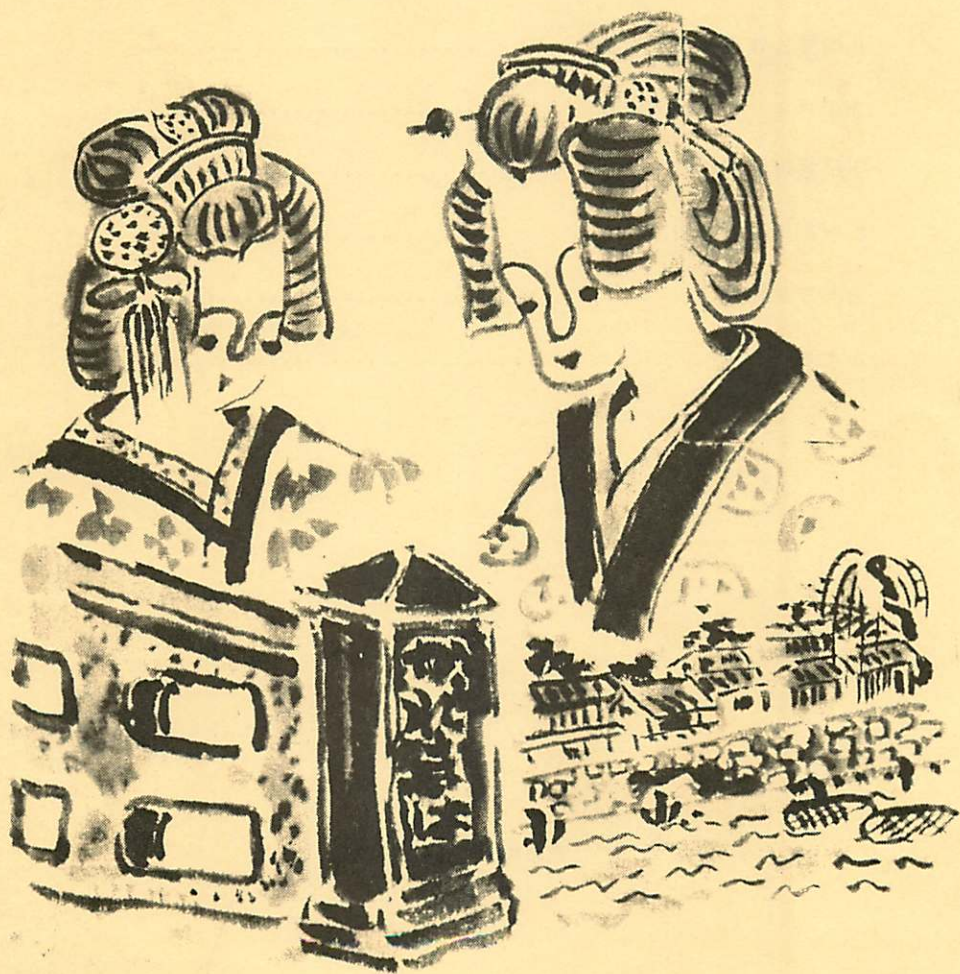


老舗の街・尾張町シリーズ 3

# 尾張町繁昌記

金沢弁でつづる商人のたた住まい



## 目 次

あいさつ言葉	.....	1
尾張町より分家した新町通り	.....	1
花柳界と共に栄えた老舗町	.....	2
大正ロマンの漂う尾張町	.....	2
下尾張町停留所前	.....	5
色解麻川映夢香山	.....	6
金沢弁対称表	.....	7
あとがき	.....	8

## 尾張町繁昌記

### あいさつ言葉

「アーラうわ、ねーさん。お久しうこって、おたづねも申しミセズ、うちかたさま皆様お達者ですき」

「オイネ、オイネ、アーラどうしたもんや気の毒な、お心ありゃこそ。アンサマの嫁ごも呑む水のごめんあって、皆んな息災で石垣下に住まわせて戴いてもろーてオリミス」

しもたやの軒先で取り交わす挨拶の言葉も、近頃は滅多に聞き取れぬ御時勢となりました。

犀川口と浅の川口は、通称上口(泉町方面)・矢口(堀川揚場方面)・中口(浅の川尾張町中心とした界限)・大樋口(小坂方面)と称し、中口を四聯区と総称するのも面白い。大手堀を中心に大手門、黒門を左右に構え、内堀として西内惣構堀[にしうちそうかまへぼり]。東内惣構堀[ひがしうちそうかまへぼり]の防備の中の商人の町。尾張町あり。

前田利家公入城と同時に、尾張の国荒子より移住して来た門前町として栄え、城主様の命により緊急御用達金・上納金・冥加金を調達して即納を果たした御用商人の町である。城主の御声がかかりが真下に伝わる石垣下に暮す、と言う誇りをもった気骨・気風が日常の挨拶言葉となるわけである。続く町並に戸田主計の住んだ主計町あり。母衣衆の屋敷跡の母衣町とつづき、隣町は高級職人衆の住む町新町通りがある。

### 尾張町より分家した新町通り

明治20年、新しく誕生した新町通り。この町に住む職人衆は得意先商家(おおやけさんと言う)の出入りを許され、物入り事(冠婚葬祭)には必ず執持[とりもち]に参上して、得意先とのつながりを深めたのである。狂言師(多々良)、義太夫師匠(清治)、遊芸師匠、宝生流職分、能笛、生花師匠、茶人。茶宗匠(

桑原宗慎・柿崎小豆庵)、骨董商(七件)、表具師(二件)。象眼職、飾り職、足袋職。袋物師、袴仕立。和服裁縫師匠、指物師(二件)、糸打紐職。上生詰菓子職、盃職、桶職、履物商、質屋、茶商、魚屋。八百屋、酒商、医者等生活に関する業種が、東から西に通ずる一筋道に軒を並べている町として珍らしい。

#### 花柳界と共に栄えた老舗町

“浅の川宵のうちより鉦[かね]ばやし”

浮世はかわり芽吹き柳や浅の川。麻畔の旗亭とともに変わらぬ南面の様な臥龍山の黒い姿とともに今日に栄える。

「ドヤ流れのかずへ町(主計町)、廓へくり込むか]おあんさんの立咄しあり、宵の灯が軒にともる頃、久保市神社の裏道のだんだら坂(通称ひよどり越え)を駆けおりて、おん屋館入りとなる。今も昔も変わらぬ浅の川党のおあんさん連中。旦那衆の社交場として栄えるのも、心うれしきかな。

#### 大正ロマンの漂う尾張町

大正八年八月、金沢市街電気軌道株式会社が初代社長飯尾次郎三郎氏によって設立され、尾張町地内に軌道が敷かれ、三停留場が設置された。金沢駅前より尾張町通り・小立野へと走る1号路線である。当時の線路施設工事はヤクチャムナイ程の大工事、当時はお粥鍋をヒックリ返した如き巷の騒動であった。

道路拡張の為、家屋後退改修は(お城から見て)北側と決まり、工事は市姫神社側より始まった。掘起しの土砂運びは人夫、つるはしとモッコ担ぎに始まり、土砂の積重ねで森八前より武蔵の田守呉服店の家屋が見えぬ程の大工事であった。

さて当時の面影を述べると、博労町停留場は上尾張町、第二菊水倶楽部映画館前で、当時の小屋主は時の消防団長の才田某にて、後に九人橋の沢田某へと移り、その頃の時代劇専門にて町の人気を呼んでいた。主な上映物は丁髷もののチャンバラ劇専門で、当時の十銭豆文庫本を題材に霧隠才蔵武勇伝、宮本武蔵、真田十勇士、猿飛佐助、伴団右衛門武勇伝劇を沢村四郎五郎、目玉の松チヤ

ン等が演じていた。人気俳優によりて、名弁士花井霞月の紋付羽織はかま着用姿にて人気をさらったものである。

角向いの大和田銀行(現福井銀行)あり、金沢市内で二店のみの大蔵省認可金銀地金販売許可店(向田商店と大和田銀行)で、金銀細工師、打出し物職人衆の地金の仕入れに便利であった。

小間井ゴム靴店に続く隣に村井高等洋服屋あり。別誂のインパネス着て、三田洋品店でラクダのメリヤスを身にまとい、河合洋物店で当世流行の粋な高シヤッポ買求め、一寸丸の藤のステッキと酒落れ込む。

友田呉服店(掛作り)で最高級の大島紬のおついに身をくるみ、当節流行の扇面柄の御国染下着の重ね着で、錦紗織の銀ねずみ地の総しぼり兵児帯を巾広に締め込む。

山田のとつけや(時計屋)で大枚の買物は、金クサリ付の十九型金側時計であり、ズシリとした感触を味わいつつ懐中に。

御足許は鶴見の履物店で別誂の丹波桐四十八本征目下駄を揃える。花緒は紺地の舶来太目のピロード緒である。ほとぎ店(掛作り)で誂えた四枚馳の白キャラコ足袋の足もとがイヤという程目にしみる。

隣は七日堂というキリスト教信者のこの地区初めての、岩井の天狗たばこ販売店あり。西洋カブレか日曜には休店とする当時としては最もハイカラ店なり。奇抜な宣伝にて客を集め、川上音二郎を店頭で「オッペケペッポペポッポ暫切り頭の底たたきや文明開化の音がする」とうたい文句にて大いに売りまくったという、有名な話しあり。

つづくは斜め向いに後のカンカラ堂餅菓子屋、又その向いには朝日呼うどん屋あり。本職のかたわら、縁日でののぞきからくりの仕事も器用なものであった。ムチを片手にのぞき絵の物語り、子童相手の人気の的となる。

火災にあったのか残念なり、隣に大宮の道具屋あり。又カフェあり。

運動会・遠足等に一際繁盛の石野雨合羽屋あり。あの桐油の雨合羽の匂いが今もって懐かしい。石谷でゴム足袋(地下足袋)を買い、石野で合羽を買う。遠足の前夜は嬉しくて寝つかれず、ゴム足袋を履いたまま床に入った子童時代が

忘れられない。

角家に野村屋万頭屋あり。仏事に供える焼万頭が何とも香ばしいかおりを放ち、十銭とはありがたい。

隣の福久屋(希靖軒)、官許郵便切手売捌所とある木むすこの一部を、六寸角の切込みの窓口で手をさしのべ、買求めの客に手渡す販売法はいかにも役人らしい。

向いの植忠菓子問屋。尾張町の風流旦那として評判なり。宝生流の能楽をたしなむ。文人画もたしなみ、大西金陽門弟にて伯陽と号する。

細字の御用印判師、今日も天狗目鏡のおやっさん。ハンコを彫りながら、その目鏡の奥より愛想の好きそうな顔をガラス越しに見せてくれる。

お茶屋の宗文堂に履物屋あり。十八銭のハツ折ぞうりを店頭にぶら下げて販売。真皮の表打ちに別珍花緒すげ底には、ブリキ板打つちチャラ鳴らすぞうりが、町のおんちゃんには評判上々なり。

古物商。しもたや多種多彩軒並み続くその中に、金沢救世軍本部あり。歳末になれば、3本足の竹を組み、鉄なべ下げる姿を名付けて慈善鍋。カチャリと音する妙音が、うれしく通行人にメガホンで呼びかける。

続く坂田香海堂、文房具御店サンエスインキ、プラトンインキと三角型変形インキペンに憧れを持ちながら、ブラ下げて通学する。

途中、向いの高橋麻糸問屋あり。軒に吊せし6尺の麻糸束ねた実物看板が注目の的だった。番頭どの、ちょっと不在とみるや、すかさず麻糸を引き抜きに行くのが新町の子童の毎日の所作と知り、奥より番頭が飛び出し「又かいや！」と怒鳴り散らされるのも道理なり。

厚歯の花緒をすげるのに好適なり。

つづく紀陽館(森井書店)。本屋軍隊御用であいそよく、おてんこ髪のおかつあんも評判もの。

鍋釜商い店。本多自動車修繕店も相も変わらず、朝のとち暗がりからダットサン修繕で、終日車の下で仕事をし御精がでますこと。

その頃不思議なことは、天下の大通りに通称、誰とも世上に人の噂に言い伝

わる化物屋敷というやかたがあったのも面白い。

サーカス、瓊芝居の緑日小屋掛けも祭礼には空地に毎年来たり、客を呼ぶ。金座、銀座あり、他町で見られない金銀地金販売店の今に栄えるムコダ、大和田銀行(福井銀行)、共に加賀伝統金工職人芸を支える大事な役目を果たす。

裏通りの今町界限には飾職人、金銀打出し職人、鉄・象眼打出し職人多く住み着き、金沢随一の金工、職人町なるといえる。森飾職、柿畠打出しもの職。山川孝次、広谷、藤井一正象眼師、松崎、林、吉村等特技をもった名工達も石垣下の町並なればこそ。

尾張町一番の早起きの越半うるし店、大黒柱までうるしのふき艶でピカピカと光っている。本膳、二の膳、会席膳、蛸足御膳、折敷[おしぎ]に湯桶[ゆとう]に秀衡[ひでつぐ]椀、厚物、吸物、大平[おひら]、と凡そおよばり客の接待には無くてはならぬ金沢漆器の見せどころ、何でも揃うた越野半兵衛どの。

やがて、ドーンが鳴ったら昼めしや。本丸から打出す空大砲。時報と共に繁昌の山田とつけや(時計屋)。営門前なればこそ入営、出征、除隊ごと大繁昌となり、向いの兵隊相手の銀座食堂(名物おてんこ髪の界限きっての美人)共々に金の成る木が生えてくる。山田の時計所と称する俵の一枚看板が今以てなつかしい。

こしはま玩具店あり、続く太郎田屋染物店の庭の大老松の深緑。又、丸岡屋の珍盆栽には好き者の店。煎茶席には亭主の自慢の唐物渡りの朱泥、烏泥、植木鉢、そのとなりの塗りも確かな高蒔絵。物産品の桐火鉢店。おてんこ髪のおかつあん、今朝もガッチリ店番をして旦那の留守を守る。

政友会の加藤儀一郎店あり。シャッポや。玩具や。その中に洋画劇場の大和館あり。当節はやりの冒険活動写真ハロルド・ロイド、キートン出演せり。手に汗にぎる列車屋根の活劇も少年時代に胸おどらせたのも懐かしい。

#### 下尾張町停留所前

糸物屋の塔島。海保青陵で有名な松田平四郎。加賀鳶火消し、粋さを誇る消防伴夫の能波。正月売初めに大入りの小鍛冶あり。荒世帯[あらじょたい]もつ

には何でも揃う尾張町。水瀬の流れと共に変り行くも仕方がない。

文人、粹人、茶人、商人、職人衆、寄り集りの中口界限に、桐の征目のかず程に。茶人好みの指物師、伊藤伊齊あり。濃茶、薄茶、御手前の台司[だいたす]に茶相を造る当代の名人芸。当節流行の日本髪頭を飾る評判の吉野屋べっこう店あり。濡れ羽おくれ毛に人目を誘う茂利菊香油(森忠)、木倉屋の名代びんつけ油。桜香と共に、ほのかな香りで加賀のオナゴが男心を掻き乱す。

べつ甲屋の隣の高橋呉座や(あたらしや)、今朝も丁稚がねむけまなこでしとみと上げる。きびしい拭き掃除の毎日で、これも小僧修業の一つと聞く。軒に吊した呉座のれん。紺べり縁もすり切れる忙しさ。やがて静まりの久保市神社ほど近き。

この辺りに聞き慣れない「ケーンッ」と鶴の鳴き声に、驚く雲岳と称し文人画の森八食堂あり。庭園の金網に飼育の丹頂鶴の一番が客を呼ぶ。東新地、主計町のお姐さん達にお茶席廻りの娘さん。お稽古事の疲れ直しに名物小倉汁粉あり、つぼつぼ詩絵の塗椀に塩味の効いた加賀の甘さに口取りには、ちその実の塩漬添えて心にくい程の菓子屋の気心あり。君が代(森八せんべいの名称)は「千代に八千代にやさしや色は見えねど香りはうつる、その香りにうっとり照葉の名残り。散るは浮世か、散らぬは色つき夢香山。麻川の流れに月のかげ」

#### 色解麻川映夢香山

[いろとけるませんにうつるむこうやま]

風雅つきせぬ天下のお目付通りの尾張町。お城さまお国入り玄関に、枯木橋あり。風雪に耐えぬいだ戸室石の高欄に石工整跡もたしかに残る。格式を示す石川県里程元標のこの辺りに、舶来物の販売店三田洋品店、河合洋物店二店あり。当時は、流行の先端を取り入れ、好況時代に恵まれた米仲買人、羽二重問屋、老舗、旦那衆を常得意としてハイカラ洋服党の憧れの店として、片町宮市洋品店共に凌ぎを削る。(洋品店の御三家)

大正文化の中心地、ロマンの漂うこの辺り、心の合うた友千鳥言わぬは云うに増花の柳の廓に演舞場あり。(主計町検番)御徒土の町や芸者姿も仇っぽく麻川に映す。



東演舞場あり。弥生半ばの花の雲。馴染みの客も足繁く、浮きに浮かれて相合傘や栄華を誇る尾張町。藩政このかた富貴自在の繁昌と豊国氏が豊かに祝す千秋万歳限りなく尽きせぬ名残りそいつの世まで、老舗の鑑[かがみ]を語り伝えて残しける。

昭和61年11月 木倉屋 銈造

金沢弁対称一覧

荒世帯(あらじょたい)	新世帯
あんさま	商家の長男の呼び名
いんばねす	とんびの型を真似た洋服
うちかたさま	お家の方々
おあんさん	若旦那、商家の跡取り息子(敬語)
おいね	はい
おてんこ髪	丸まげ髪型
およばれ	招かれる
しとみ	雨戸
息災	元気で何事もない
やくちゃむない	とてつもなく大掛かりで大変なこと

木倉屋 銈造氏 略歴

大正元年12月10日生。木倉屋3代目。石川郷土史学会会員。加賀風俗画を研究。文人画を水島淇園に師事する。趣味として古典音楽、常盤津を研究。月刊誌「おあしす」に12年間、「金沢のしきたり」について執筆する。

## あ と か き

未来の尾張町を見つめて行こうとする時、先人達は何を残したかを問うことだけでなく、本質的な部分で何を目指していたかを発見することに意味があるのではないのでしょうか。この小冊子シリーズ3では、現役でバリバリの木倉屋の大旦那さんに、昔懐かしい当時の尾張町を語って戴きました。当時を知っている方には、懐しい情景を浮かばせることが出来ることと思います。又、体験を持たない方々には、金沢の発展とともに歩んだ尾張町の歴史の1ページを発見して頂ければと願っております。

歴史の中で連綿と続く老舗のたくましさは、決して時代の波に吞まれてしまうものではないはずです。次代を頼されている私達は、自らの体験不足からくるものを補うべく、真摯な態度で飽きずに(飽きないで、商いし続けた)商売を守り育てて来た先祖に、「いま」「ここに」存ることの意味を見直し、さらに未来へ向かって歩み続けて行けることの喜びを痛感している次第です。

新しい時代の幕開きは、古さの中に新しさを持ち、又新しさの中に古さを持ち、人と人の「ふれあい」を大切にすることから始めたいと尾張町若手は考えています。まだまだ至らぬ若手会ですが、尾張町ファンの皆様の暖かいご支援を今後とも宜しくお願い申し上げます。

1987年1月発行  
尾張町商店街振興組合  
理事長 向田 武吉  
尾張町若手会  
会長 石野 瑋一